

KLEMPERER conducts WAGNER

EMI
CLASSICS
STEREO



LOHENGRIN, Prelude, Act 3 · DIE MEISTERSINGER, Overture
DIE MEISTERSINGER Dance of the Apprentices and Entry of the Masters
TRISTAN UND ISOLDE, Vorspiel und Liebestod
GÖTTERDÄMMERUNG, Siegfried's Funeral March

THE PHILHARMONIA ORCHESTRA

EMI
CLASSICS

Stereo



DSD

DSD Mastering

EMI Music Japan Inc. MADE IN JAPAN - VOCE LEGNO

ワーグナー
Richard WAGNER

1 歌劇《ローエングリン》第3幕への前奏曲

Lohengrin - Prelude to the Act III

304"

2 楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》

第1幕への前奏曲

Die Meistersinger von Nürnberg - Prelude to the Act I

10'57"

3 楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》～

徒弟たちの踊りとマイスターたちの入場

Die Meistersinger von Nürnberg - Dance of the Apprentices & Entry of the Masters, Act III

6'52"

4 楽劇《トリスタンとイゾルデ》～

第1幕への前奏曲と愛の死

Tristan und Isolde - Prelude to the Act I and Liebestod

15'47"

5 楽劇《神々の黄昏》～ジークフリートの葬送行進曲

Götterdämmerung - Siegfried's Funeral March, Act III

7'42"

フィルハーモニア管弦楽団

Philharmonia Orchestra

指揮：オットー・クレンペラー

cond. by Otto KLEMPERER

Recorded: 25 February & 3 March 1960, Kingsway Hall, London (1)

1,2 March 1960, Kingsway Hall, London (2)

8 March 1960, Kingsway Hall, London (3)

1-3 March 1960, Kingsway Hall, London (4)

27 February 1960, Kingsway Hall, London (5)

Producers: Walter Legge, Walter Jellicoe

Balance Engineer: Douglas Larrier

Remastering Engineer: Simon Gibson

巨大にうねり、猛烈に膨れ上がる圧倒的なワーグナー

～クレンペラーのワーグナー管弦楽曲集

ワーグナーの管弦楽曲集は演奏する側と聴く側とて、いずれの側からいっても甲斐というもののある音楽じゃないだろうか。ワーグナーの音楽を愛する、いわゆるワグネリアンを自称する私にとっても、ワーグナーのオペラ全曲を聴くということは、それが実演で舞台の楽しい進行を伴っているものであっても、レコードで聴き通すことであればなおさら、またどの作品でもいい、全曲のなかの一幕だけをレコードやCDで聴くということであっても、重大な決心なり覚悟なりを要することであって、決して気軽に聴けるものではあり得ない。そこへいくと、長大なオペラの序曲や聴き所の一部分をそこだけ楽しむことのできる管弦楽曲集は、長大な時間と体力を要する難儀な代物を手軽に享受できる、安直というなかれ、実に聴き甲斐のあるレコードなのである。それに演奏するオーケストラのメンバーだって、全曲ともなれば分厚い楽譜を前に体力的な配分も考えのじやないだろうか。それがいわゆるおいしい部分だけを採り出した管弦楽曲集なら、最初から思い切っつて楽しめるというものだ。音楽というのは、たいてい、聴くよりも演奏するほうが楽しいものだからである。演奏する甲斐、それを聴き楽しむ甲斐、いずれの場合も、甲斐のある音楽なのだと思う。

ドイツの名指揮者、オットー・クレンペラーは長く歌劇場の音楽監督だったのであり、もちろん彼はワーグナーを特に得意とした職人肌の指揮者だった。このデイスクに収められたワーグナーも聴いていて胸がドキドキ踊るよ

うな、じつにすばらしい演奏だ。《ローエングリン》の第3幕への前奏曲は残念ながら短くてあっという間に終わってしまうのが惜しい。もうこのすぐ先はあの〈婚礼の音楽〉なのに……。しかし《マイスタージンガー》のなんという彫りの深さと巨大なスケール！あのクナッパッツシュの超名演と双璧だ。クレンペラーといえは、交響曲を中心としたコンサート・プログラムでは梃子でも動かないテンポの、頑固親父の音楽を思い浮かべる方も多いだろうが、ワーグナーの音楽に表れたなという柔軟で表情的なテンポとダイナミックだろうか！〈前奏曲〉では冒頭は遅いの、〈マイスタージンガーの動機〉の音楽が始まると、途端に流動的な表情を見せ、推進力の非常に強いテンポになるのだ。第3幕の音楽の楽しさ！ヨハン祭を祝う市民たちの華やいだ気分とマイスターたちの立派な行進を髣髴とさせる実にダイナミックな音楽！

そして《トリスタンとイゾルデ》でもクレンペラーの指揮は大きくうねうねと流れる驚異的なダイナミックさだ。これもまたクレンペラーなのだ。特に〈イゾルデの愛の死〉の息の長いレッシェンドとアツチェラントの盛り上がりは最高にエキサイティング。音楽は巨大にうねり、猛烈に膨れ上がる。それでいてワーグナーの音楽そのものはいささかもせこせこに染まらな^{とらび}いのだ。聴き手の胸にグサリと突き刺さる興奮である。掉尾を飾るのはもちろん《ニーベルングの指環》、それも《神々の黄昏》から〈ジークフリートの葬送行進曲〉。クレンペラーの指揮は大きく呼吸し、ワーグナーの音楽そのものが猛烈な迫力で聴き手を圧倒するのだ。音楽の懐の深さ、巨大なスケ-

ル、聴き手を音楽に引きずり込んで翻弄するうねり、猛烈な推進力……。こういう要素を持ったワーグナーはやはり誰でもできる音楽ではない。だからこそこのクレンペラー、なのである。

こういう稀代の名演奏を永く聴き継がずしていったいどんな音楽を永遠とするのか。EMIはこれを現代の最新、究極の技術、SACDによって蘇らせたのである。試聴はCD-Rで行なったが、SACDのためのリマスタリングの効果は歴然だ。《ローエングリン》の第3幕への前奏曲が始まった途端、聴き手はそのダイナミックなサウンドに目が眩むような印象を持つに違いない。その絢爛と華やかな響きはあくまでクリアに澄み渡り、響きの遠い奥まで見通しが利いているではないか。オーケストラの各セクションがクッキリと浮かび上がり、響きのマスの中に埋没しないのだ。もしかしたらこういう響きはレコード録音だからこそかもしれない。コンサートホールではこうはいかない、高度に発達した録音技術ゆえのサウンドかもしれない。だとしてら、なんとというすばらしさ！これこそがレコード芸術なのではないだろうか。

《マイスタージンガー》は聴き所満載で、オペラが始まってから終幕に至る5時間を超える長い時間の中で、第2幕と第3幕は音楽的にも最高に楽しく充実しているが、ヨハン祭の晴れやかな気分を伝える〈徒弟たちの踊り〉とマイスターたちの入場はそのハイライトだ。各楽器の音色がリアルに再現される色彩感！これもまた、SACDによって再認識されるオリジナルのサ-

ウンドなのだ。しかし《トリスタンとイゾルデ》の複雑に絡み合うモテイエフの綾がなんとクリアに、色彩的に響くことだろうか。こうして私たちはオリジナルのマスターサウンドに近づいているのだ。コンサートホールのサウンドをも超えるレコード芸術。私たちはこのオリジナル・マスターサウンドをSACDで存分に楽しもう。

ワーグナー

歌劇《ローエングリン》第3幕への前奏曲

ワーグナー、7作目のロマン的オペラ。《さまよえるオランダ人》の構想を練っている1840年ごろにすでに着想はあったようだが、台本を完成したのは45年。作曲は48年に完成した。当時、ワーグナーはドレスデンの政変に大きく関与しており、翌49年に始まったドレスデン革命の政治犯として逮捕状が出て追われる身となったのである。ドレスデンを脱出したワーグナーはスイスへの途上、ワイマールにフランツ・リストを訪ね知己を得たが、これが幸いし、ワーグナーはリストに《ローエングリン》の上演を委ねることができたのである。50年8月28日、リストはワイマールで《ローエングリン》を初演した。

曲はローエングリンとエルザの婚礼の儀式を描き出すようにきらびやかでダイナミックな起伏を示す。実際のオペラではドラマに直結されて、有名な結婚式の音楽につながっていくが、このレコードのように、終結部がつけら

れてコンサートでもしばしば採り上げられる。

楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》第1幕への前奏曲

楽劇《トリスタンとイゾルデ》に次いで、超大作《ニュルンベルクの指環》四部作の第3作、楽劇《ジークフリート》を中断して書かれたワーグナーの11作目のオペラ。1845年7月に最初の構想が練られるが、一度放り出された。61年10月から台本が書かれ、翌年1月に台本が完成。すぐさま作曲が開始され、67年2月に全曲が完成した。

初演は68年6月21日、ミュンヘン宮廷劇場で開催された。合唱指揮者にハンス・リヒター、全体の指揮をハンス・フォン・ビューローが担当し、大成功を収めた。

楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》～徒弟たちの踊りとマイスターたちの入場

第3幕第5場の冒頭の音楽。聖ヨハン祭を祝う市民たちが広場に集まってくる。楽師たちの伴奏で職人組合の徒弟たちが若い娘たちと楽しいフォークダンスを踊る。そこに割り込むように入ってくる親方たち（マイスター）の堂々たる行進によって、祭りは最高潮に達するのである。

楽劇《トリスタンとイゾルデ》～第1幕への前奏曲と愛の死

《ニュルンベルクの指環》四部作の第3作、楽劇《ジークフリート》を中断して着手されたワーグナーの10作目のオペラ。1857年に台本が完成。すぐ

に作曲が始められ、59年8月に全曲が完成した。初演は65年6月10日、ミュンヘン宮廷劇場にてハンス・フォン・ビューローの指揮で行なわれた。

前奏曲冒頭の和音を聴いて、ベルリオーズは驚愕の叫び声をあげたと伝えられているが、前奏曲は最初から最後まで、厳密な意味で和声的に終止せず、浮遊するかのようになさまざまな調性をさまよう。いくつものモチーフが絡み合い漂いながら流れていくのだ。ワーグナーが書いた最高の愛の音楽であり、死の音楽である。愛するがゆえに憧憬を抱き、愛するがゆえに苦悩する。死を望んで「愛の酒」を飲んでしまったトリスタンとイゾルデにとつて、死こそ愛の究極なのである。(イゾルデの愛の死)はこと切れたトリスタンと、彼を胸に抱いたイゾルデの究極の愛の音楽であり、愛の苦悩が死によって解放される、その究極の愛の音楽なのである。愛ゆえに苦悩する恋人たちの魂は、彼らの死によって救済されるのである。《ニーベルングの指環》四部作、そして《パルジファル》と並んで、《トリスタンとイゾルデ》は音楽史に燦然と輝く、ワーグナーの最高傑作といえよう。

楽劇《神々の黄昏》～ジークフリートの葬送行進曲

ワーグナーの13作目のオペラ。楽劇《ニーベルングの指環》四部作の第4作である。1848年11月、《ジークフリートの死》として台本が書かれたが、52年に《ニーベルングの指環》の最終章《神々の黄昏》として完成した。作曲は69年10月に開始され、74年11月に全曲を完成。初演は76年8月17日、バイロイト祝祭劇場で。ワーグナーが自作の上演のために設計・建設した劇

場のこけら落とし公演で、世紀の超大作《ニーベルングの指環》全4作(13日《ラインの黄金》、14日《ワルキューレ》、16日《ジークフリート》、17日《神々の黄昏》)が初演されたのである。指揮はハンス・リヒター。このツィクルスは8月中になお2回繰り返されたという。

《神々の黄昏》第3幕、天下無双の英雄ジークフリートがハーゲンの策略に屈して倒れた。(葬送行進曲)は最終場への場面転換の音楽である。

オットー・クレンペラー

1885年生まれ。1907年にマラーの推薦でプラハのドイツ劇場の合唱指揮者、後に指揮者となって《魔弾の射手》でデビュー。27年にベルリン国立歌劇場の支部として、クロル・オーパーが創設され、現代音楽に深い理解を示していたクレンペラーが指揮者に迎えらる。33年からはアメリカを中心に広く活動、54年以降はフィルハーモニア管弦楽団を中心に、レコーディングにも精力的に取り組んだ。72年に引退。73年、チューリヒで没した。

(松沢憲)

SACD (Super Audio CD) について

SACDとは、CDの開発者であるソニーとフィリップスによって共同開発された新世代のオーディオディスクです。音楽の感動を余すことなく伝えるために、録音周波数帯域を100kHzまで拡張し、ダイナミックレンジも120db以上（可聴帯域内）と大幅に拡大。その結果、自然界に存在する音のほとんどすべてを捉えることが可能になりました。SACDでは、従来のPCM方式とは異なったDSD (Direct Stream Digital) と呼ばれる信号の記録再生変換行程が採用されています。この行程により、音の鮮度をほぼそのまま保ち、音楽信号のほとんどすべて、さらに演奏会場の空気までも忠実に再現することができます。



DSD (Direct Stream Digital) について

DSD方式とは、アナログ信号をデルタ/シグマ変調器で高速1ビットのデジタル信号に変換し、直接記録するレコーディング、マスタリング方式です。従来のCDに用いられているPCM方式に比べ、シンプルで自然な音楽信号が再現できるため、アナログ信号に近く、音楽の空気感までも再現することができます。



シングル・レイヤー・ディスクとは
SACD (Super Audio CD) 信号のみの層 (レイヤー) で構成されるディスクです。CD層とSACD層で構成されるハイブリッド・ディスクとは異なり、信号層を透過性にする必要がなく、ハイブリッド・ディスクの数の倍の反射率を確保する事が可能になります。

このSACDディスクは一層式の構造になっていますので、SACD対応プレーヤーでのみ再生することができます。通常のCDプレーヤーでは再生できません。

〈取り扱い上のご注意〉 ●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。 ●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。 ●ディスクは両面共、鉛筆、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。 ●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。 〈保管上のご注意〉 ●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。 ●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。 ●プラスチックケースの上に乗らないものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをする可能性があります。

Job No. 1-3160
Session 1-3160
Overall Title: **WAGNER;**

| ARTISTIC INFORMATION | | COSTING INFORMATION | | REMARKS | |
|---|--|---------------------|--------------|---------|---------|
| CONDUCTOR | MATERIALS USED | SESSION BOOKED TIME | ORDER NUMBER | DATE | REMARKS |
| ORCHESTRA | SESSION ACTUAL | 10-1 | 2 X 77 | | |
| ACCOMPLISHMENT | SET-UP/PLATBACK | 10-1 | 10-1 | | |
| ART. DEPT. REP. | TAKE DETAILS | 1/4 | 3 SHEET | | |
| SEEL NUMBERS | FROM <td>1/4</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> | 1/4 | 2 | | |
| AUTHOR/COMPOSER/PUBLISHER | TO <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> | | | | |
| TITLES and MATRIX NOS. | FALSE STARTS | | | | |
| KLEMPERER w/ PHILHARMONIA | DR. O. KLEMPERER | 55 | ST | 64 | END. |
| | MR. W. LEVAYE | 56 | 43 | 64 | END. |
| | | 57 | 63 | 64 | END. |
| | | 59 | 43 | 64 | END. |
| TRISTAN AND ISOLDE AND LIEBESTOD (VORSPIEL) | | 60 | 74 | 64 | END. |
| | | 61 | 62 | 64 | END. |
| | | 62 | COMPLETE | 64 | END. |
| | | 63 | ST | 64 | END. |
| LIEBESTOD | | 64 | ST | 64 | END. |
| | | 65 | 6166 | 64 | END. |
| | | 66 | 112 | 64 | END. |
| | | 67 | 67 | 64 | END. |
| | 68 | 71 | 64 | END. | |

〈トリストランとイゾルデ〉からの〈前奏曲と愛の死〉収録時の資料